

フルアシスト自転車・電動キックボードとは！

2023年7月の改正道交法の施行を受け、「フルアシスト自転車」および「電動キックボード（特定小型原動機付自転車）」のシェアリングや販売が開始されました。新しい乗り物が増えることで便利になる一方、多種多様な乗り物が出回って、これは免許証が必要な乗り物なのか？などルールがはっきりしないと思う人も増えています。違法だった、新たに保険が必要だった・・・なんて失敗しないために、乗る前に確認してみましょう！

従来より馴染みのある電動アシスト自転車は、ペダルを漕ぐことでモーターが動きますが、「フルアシスト自転車」は、ペダルを漕がずにモーターの力だけで進むことができます。モーターの動力のみで走行できるので、原付バイク（原動機付自転車）と同じカテゴリに区分されています。公道で走行するためには、原付バイク同様の要件を満たさなくてはなりません。注意事項として原動機付自転車の免許、車道通行（歩道走行不可）ヘルメットの着用義務があります。

次に「電動キックボード」ですが、モーターとバッテリーを搭載しアクセルを回すだけで簡単に運転できる乗り物です。免許不要の特定小型原付に分類され、保安部品（ブレーキ、ヘッドライト、バックミラーなど）を装備しナンバーを取得すれば、公道を走行することができます。

2023年7月より自動車の免許は不要になり、16歳以上

であれば運転が可能になりました。「フルアシスト自転車」「電動キックボード」は、年々事故が多くなっており賠償金額は高額になるケースもあります。自賠責保険、および任意自動車保険の手当てが必要となります。（自転車事故で補償対象となる「個人賠償責任特約」では対象外となりますのでご注意ください）購入を検討している方は保険の加入をご検討ください。

*シェアリングの場合は、シェアリング会社で保険が自動付帯されているケースが多いですが、前もって保険の有無および保障内容を確認することが大切です。



ロイド かわら版

令和6年



夏号



発行所

保険代理店ロイド

ジェネリック医薬品は「お試し調剤」から始められます！



2024年健康保険と介護保険の保険料引き上げが予定されています。高齢化・医療技術の進歩により医療費が増え続けている現状から、持続可能な社会保障制度の構築を目的としており、例として各市区町村や企業では医療費削減として低価格のジェネリック医薬品利用を推奨するなどしています。

薬局に処方箋をもって行くと「ジェネリックにしますか？」と尋ねられますよね。ジェネリック医薬品（後発医薬品）は、新薬（先発医薬品）と

同等の有効成分・分量・用法・用量・効能および効果を持つことが認められた医薬品です。「ジェネリック医薬品は効き目が心配…」という声もよく聞きますが、これらは新薬と同等の効き目や安全性を証明するための様々な試験が行われたうえで厚生労働省の承認を得て製造・販売されています。その他にも味の改善や服用後の溶けやすさ、飲みやすさや、飲み間違いを防ぐ工夫もされています。

新薬と効果が同等であることはもちろん、その安価さから自己負担軽減や健康保険・介護保険の医療費軽減の効果も期待できます。

医薬品を変更することに不安がある場合はまず「お試し調剤」がオススメです。4週間分の薬のうち1週間分をジェネリック医薬品に変更し、服用後に問題がないかを確認。その後、残りの薬を処方してもらえる仕組みです。効果が同等であることが確認できれば、ぜひジェネリック医薬品で自己負担削減を検討してみましょう！

今月の 社員紹介！

秋元 堯（たかし）です。政治と税金に興味があり少しずつですが、勉強しております。保険も政治も税金も日常生活では考えることが少ない分野だと思います。勉強して皆様のお役に立ちそうなお話があれば共有させて頂きます！！



〈取扱代理店〉

株式会社 保険代理店ロイド

（本社）TEL.0466-50-2510 FAX.0466-50-0749

（東京オフィス）専用フリーダイヤル.0120-047-087

（本社営業時間：月～金 9:00～17:00 東京オフィス：月～金 9:00～12:00）

このチラシは概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店までお問合わせください。



万が一に備えましょう！「ペットにも防災！」

ひとくちにペットといっても、飼い主にとっては家族のように大切な存在です。日本では大きな地震やその他の災害も多く、そんな有事の際の不安や心配事に注目が集まる機会も少なくありません。そんな現状から各自治体では現在、「ペットの防災活動」を強化しています。地震や豪雨災害に備えて、犬や猫、小鳥などのペットと一緒に連れていける避難所の整備が進んでいます。ペットと離れたくない飼い主が避難せずに済むだけでなく、飼い主とはぐれたペットが人に危害を加えるといった事故を防ぐ狙いもあります。

自治体が発行する専用パンフレットでは、ペットと一緒に「同行避難」するための準備についても説明しています。ペットフード、水、トイレ用品、常備薬、ゲージ、リード、ハーネス、写真など…当然ですが避難所の備蓄は人間用のため、ペットの食料は飼い主が準備する必要がありますから、人間の避難装備以上に様々な準備が必要となります。

また避難所では動物が苦手な人やアレルギーのある人がいるため、ペットと一緒に過ごせる場所は限られます。

ペットにとっては不慣れな場所のなか、飼い主が用意するゲージで過ごすことになりますから、日ごろからしっかりとしつけを行っておくことも重要です。

また、ペットの登録、予防接種を受けた証明書を保管しておくこと、プレートを着用する等、周りの人が安心して生活できることを知らせることも、ペットと同行避難するためには必要不可欠の準備の一つでしょう。

これらは災害が起きてからでは間に合いません。

各自治体ごとに避難所のルールも異なるため、パンフレットを参考にしたり、地域の防災訓練やペット防災のセミナーに参加して、万が一に備えておきましょう！



新宿区HPペット防災パンフレット

ベランダできる竹チップ段ボールコンポスト！

コンポストは英語で「堆肥（たいひ）」を意味します。

生ごみは土に入ると微生物の力で発酵・分解され、土はふかふかになり腐植やミネラルなどの養分が供給され堆肥になります。これをダンボール箱の中で再現するのがダンボールコンポストです。

現在、家庭から出されるゴミの40%が生ごみと言われており、これらはごみ処理場で燃料を用いて焼却されています。しかし生ごみをコンポストで堆肥化して土にかえすと、生ごみ処理にかかる燃料・運搬費を削減し、大気中に排出される二酸化炭素を100分の1に減らすことができます。この堆肥を土に混ぜると、花や野菜が丈夫に育ちます。

恵泉女学園大学ガーデニングスルーム研究会が開発した「竹チップ段ボールコンポスト」は生ごみを堆肥化する生ごみ処理キットです。コンポストというと庭が無いとできないイメージですがこの「竹チップ段ボールコンポスト」はマンションのベランダや家の中でも手軽に使うことができます。水分調整ができる2重構造の段ボールを使用し地元で手軽に手に入る竹チップや米ぬかを使用している点が大きな特徴です。

家庭から出る生ごみが減り、二酸化炭素の排出量が減り、竹林の健全な管理にも役立つなどの利点も多く、SDGsの持続可能な社会の実現のために「生ごみ」という身近な問題を通して、食と環境について考える機会にも繋がりますね。家庭の状況によりますが竹チップ段ボールコンポストは毎日約600gの生ごみを入れて約3か月程度使うことが可能です。自治体ではコンポスト導入に関して補助金を出している

ところもあるので、ぜひ確認してみてくださいね。

* 恵泉女学園大学ガーデニングスルーム研究会「竹チップ段ボールコンポスト」より



はじめて1か月の段ボールコンポストの中

〈取扱代理店〉



株式会社 保険代理店ロイド

（本社）〒251-0055 藤沢市南藤沢23-6 富士見ビル4F

TEL.0466-50-2510 FAX.0466-50-0749

（東京オフィス）〒166-0003 杉並区高円寺南4-26-16 芦野ビル4F

東京オフィス専用フリーダイヤル.0120-047-087

（本社営業時間：月～金 9:00～17:00 東京オフィス：月～金 9:00～12:00）

このチラシは概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店までお問合わせください。

